

視 察 報 告

(前半分)

| | |
|------------------------------|----|
| 1. つくば市立学園の森義務教育学校 | 1 |
| 2. 土浦市立都和小学校 | 7 |
| 3. 八千代市立萱田南小学校 | 14 |
| 4. 千葉大学教育学部附属小学校 | 21 |
| 5. 千代田区立神田一橋中学校 | 28 |
| 6. 豊島区立目白小学校 | 36 |

※ 資料に記載している事項は、現在確認中あるいは調整中の事項を含むため、今後、修正等を行う可能性がある。

1 つくば市立学園の森義務教育学校（茨城県つくば市）



学級編成 (2018年5月現在)

| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 7年 | 8年 | 9年 | 計 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|-----------|-------------------------------|
| 8学級 268名 | 6学級 203名 | 6学級 193名 | 5学級 151名 | 4学級 135名 | 4学級 115名 | 2学級 56名 | 1学級 23名 | 1学級 7名 | 41学級 (特別支援学級4学級を含む) 1,151名 |

職員

| 校長 | 副校長 | 教頭 | 教務主任 | 副教務主任 | 教諭・講師 | 養護教諭 | 事務 | 学校管理員 | 学校図書教諭補助員 | 学校図書館協力員 |
|----|-----|----|------|-------|-------|------|----|-------|-----------|----------|
| 1名 | 1名 | 2名 | 2名 | 1名 | 51名 | 3名 | 3名 | 2名 | 1名 | 1名 |

| スクールカウンセラー | スクールリーダー | 給食配膳員 | AET | 理科支援員 | 特別支援員 | 計 |
|------------|----------|-------|-----|-------|-------|-----|
| 1名 | 2名 | 2名 | 2名 | 1名 | 5名 | 81名 |

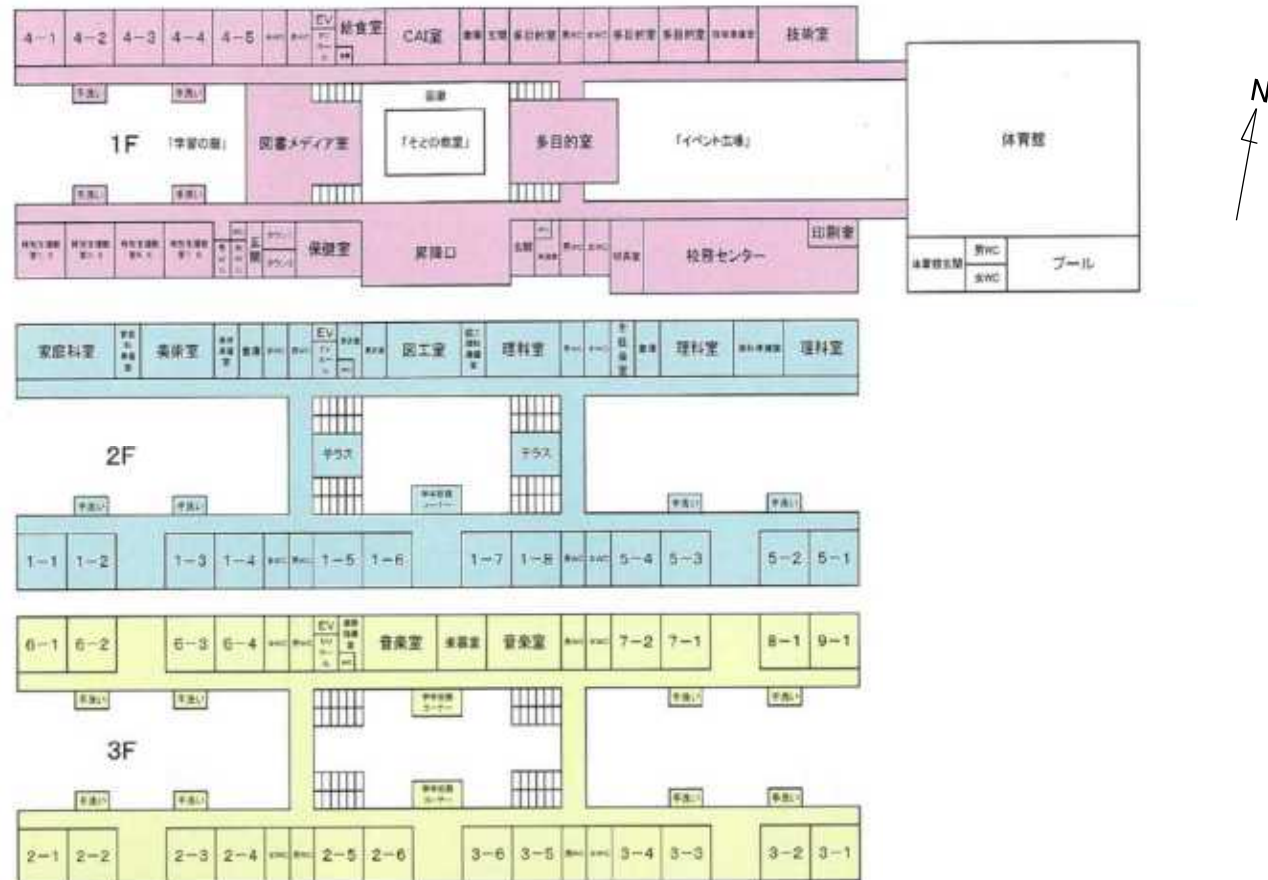
学校教育目標

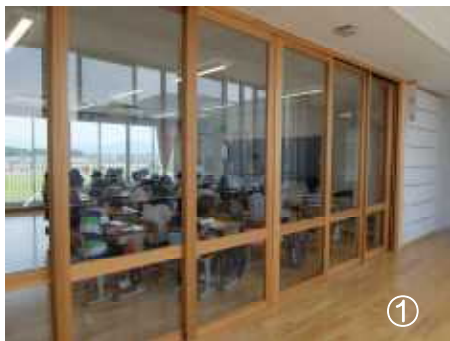
自分の可能性に挑戦し、創意をもって未来を切り開く学園生の育成

施設概要

平成30年築
 RC造3階建(北棟、南棟)
 S造1階建(中央棟)
 RS造・一部S造1階建(体育館)
 延べ14,467㎡(敷地面積51,500㎡)

沿革
 春日学園義務教育学校(H24開校)の児童生徒数増加に対応するため、分校として計画。
 H27に公募型プロポーザル方式で設計会社を決定。





①

▲普通教室。廊下とは建具（ガラス）で隔てられ視覚的につながっている。



②

▲2教室ごとに設置された交流スペース。



③

▲廊下に設置された手洗い。利用者が動線と交錯しないよう配慮。



④

▲特別支援学級ゾーン。静かな環境で別玄関から出入可能。つくば市は普通学級と特別支援学級を児童生徒が行き来する教育方針をとっている。



⑤

▲家庭科室。



⑥

▲理科室。



⑦

▲図書・メディア室。西側は「学習の庭（天然芝）」に面する。



⑧



⑨

▲明るい色調の保健室。



⑩

▲カウンセリング室。通用玄関とは異なる玄関からアプローチが可能で、非常に使い勝手が良いとのこと。



⑪



⑫

▲教師コーナー。



▲校務センター。1～9年の全教員が一室に勤務。奥に打合せスペースがあり大変使い勝手が良いとのこと。



▲多目的室。東西で「そとの教室」と「イベント広場」に接する。



▲昇降口は1箇所。9年生分の下足入れがずらっと並ぶ。



▲バスケットコート3面をとることが可能な体育館。ネットで区画して利用可能。



▲学習の庭（天然芝）から北棟をのぞむ。



▲メインのグラウンドは、野球グラウンドと陸上トラック、テニスコート4面をとることが可能。



▲「イベント広場」。周囲に接する多目的室や体育館、南北棟廊下の建具は全面開放が可能となっており、広場と一体的に利用することで多様な活動に対応できる計画となっている。



▲北棟・南棟の真ん中に配置された「そとの教室」。四方を覆う大庇が十分な半屋外空間を作り出している。児童生徒のみならず、お迎えやPTA活動時の保護者のたまり場にもなっている。



▲体育館に隣接して配置されたプール。水深の違う2面に分けられている。

委員コメント（計画面）

- ・ 全教員（第1～9学年）が一室で執務する「校務センター」が設けられており、また、その一角に打合せコーナーが設けられていた。教員間のコミュニケーションや交流に有利。
- ・ 半屋外として利用できる「その教室」が中庭にデッキ仕様で設けられていた。休み時間に子どもの集う場所となりえる。
- ・ 南棟、北棟、中央連結部、の3要素で校舎が構成させているが、外側にガラスを多用しており、お互いに見る見られる関係性があり、また、校舎全体的に見通しが良く死角が少なく安全上有利。
- ・ 図書・メディア室が中央連結部の1Fという、学校の中心に配置されており、校内全ての箇所からアクセスしやすく利用上有利。
- ・ 各階に電子黒板が配備されており、アクティブラーニングに際しての利用が容易。
- ・ （この4月に供用開始したばかりではあるが）校内の交流スペースや廊下に子ども達の作品や作文などを展示、掲示する場所や壁面が少なく、自分・自分達の場所と感じられる要素が少ない。（綺麗に使われているが、多少殺風景・ぬくもりのなさを感じる。）

委員コメント（運営面）

- ・ 図書・メディア室に司書・職員が配置されており、子ども達が落ち着いて過ごしている。
- ・ 施設の運行ボード(利用状況・予約状況を示す掲示板)が設けられており、早いもの勝ちで(そのコマで空いている)教室を予約し普通教室以外でも利用することができる。
- ・ 1Fの「そとの教室」隣の「多目的室」は、研究集会などの行事や校内行事で良く活用されている様子。部屋の一角に椅子も常備しており、椅子を使う集会でも活用しやすい。
- ・ 9学年一体のメリットを生かし、理科教室だけでも3室設けられているが、それら多様な特別教室が十分活用されているようには見られなかった。
- ・ 普通教室の間に設定された「学年交流スペース」は、児童生徒数増加に備えてリザーブ状態となっており、あまり活用されていない、中途半端な利用状況に見られた。

2 土浦市立都和小学校（茨城県土浦市）



学級編成（2018年4月現在）

| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | なかよし | のびのび | 計 |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|
| 2学級 60名 | 3学級 74名 | 2学級 55名 | 2学級 63名 | 2学級 66名 | 3学級 96名 | 2学級 11名 | 2学級 11名 | 18学級 436名 |

職員

| 校長 | 教頭 | 教務主任 | 教諭・講師 | 養護教諭 | 事務 | 少人数指導等 | 管理員 | 図書館司書 | 支援員 | 理科支援員 |
|----|----|------|-------|------|----|--------|-----|-------|-----|-------|
| 1名 | 1名 | 1名 | 19名 | 1名 | 1名 | 4名 | 1名 | 1名 | 4名 | 1名 |

| 配膳員 | スクールライフ・パートナー | AET | 計 |
|-----|---------------|-----|-----|
| 2名 | 1名 | 2名 | 40名 |

学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた、心豊かなたくましい児童の育成

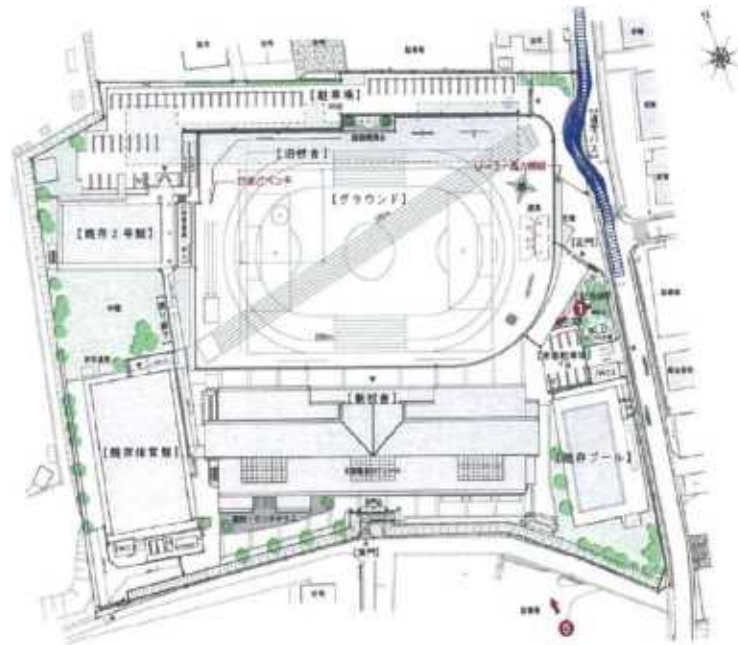
施設概要

沿革

- 明治 6年 開校
- 大正 5年 現在地に本校舎を落成
- 昭和48年 屋外プール設置
- 平成元年 校舎全面塗装、消火栓配管、便所改修
- 平成15年 2号館校舎耐震改築工事
- 平成21年 屋内運動場耐震改築工事
- 平成28年 新校舎完成
- 平成29年 グラウンド整備完了

新校舎

平成28年築
RC造3階建
延べ5, 213㎡





①

▲普通教室。内装木質化と南面からの採光によりやわらかい雰囲気となっている。



②

▲各教室の背面に備え付けの児童用ロッカー。



③

▲少人数教室。



④

▲廊下も木質化が図られている。



⑤

▲各階廊下の一角にはワークスペースが設けられている。写真は校庭の横にあったヒマラヤ杉のベンチ。



⑥

▲図書室。閲覧席の一角は上部吹き抜けとなっており、開放的な空間となっている。



⑦

▲図書室内の読書コーナー。休み時間等に児童がよく利用しているとのこと。



⑧

▲PC室。図書館と隣接しており、一体的な調べ学習が可能。



⑨

▲家庭科室。災害時の活用を考慮して体育館に近接して配置。



⑩

▲図工室。椅子には県産材を使用。



⑪

▲乾式で清潔感のあるトイレ。



⑫

▲ワークスペースの一角にある傘立ても工夫されている。



▲広々とした放送室。



▲職員室。近接した位置に印刷室も確保。



▲保健室。ゆとりのある空間となっており、グラウンドを一望できる。



▲各学年の下足入れが並び昇降口。上部は3階まで吹抜となっており、非常に開放的な空間を構成。



▲グラウンド。災害時に活用可能なかまどベンチや外部から直接利用できるトイレなども配置。

委員コメント（計画面）

- ・ 居ながらの改築事業として計画され、従来の運動場の場所（敷地南側）に建設されたもの。改築後の校舎の北側となる新たなグラウンド（従来の校舎敷地）への日陰の影響を最小限にするなど周辺環境に十分配慮した配置計画がなされた。
- ・ 中廊下式のため一般に閉塞感を持たれやすいが、校舎中央の昇降口上部を吹き抜けとすることで、上下階に一定の見通しが確保されており、閉塞感は感じられなかった。
- ・ 1学年3学級を前提とした普通教室配置。おおむね学年ごとにワークスペースが配置されるなど、学年ごとにスペースの活用を図りやすい、計画しやすい平面計画であった。
- ・ 各特別教室には十分な広さの教科準備室が隣接しており、また、家庭教室と図工室を隣同士とするなど、特別教室を使いやすくする計画上の工夫が見られた。
- ・ 1Fの中央に配置された「多目的室」は昇降口に面しており、外部との交流も含め利用しやすい。
- ・ 職員室、校長室、保健室をグラウンド側、かつ来訪者動線に面するよう計画しており、安全への配慮が感じられた。
- ・ 1階の特別支援教室、保健室、配膳室の辺りで、中廊下の影響があつてか若干臭気が気になった。
- ・ 1階に職員室、特別教室、特別支援学級、2・3階に3学年ずつの普通教室と特別教室があり、わかりやすい配置となっている。
- ・ 中廊下と階段が、中央の吹き抜け部分とともに開放感のある空間を作っている。
- ・ ワークスペースと多目的室が複数ある一方で、どれも同様の設計になっており、広さや天井高等、作業・話し合い・発表・ICT活用等の用途を念頭に置きながら、変化を持たせると良いと思われる。
- ・ 保健室が広くシャワーもあり、入り口も複数あり機能的である。
- ・ 1階にはウッドデッキがあり、多様な学習活動が期待される。
- ・ 南側に校舎を建築しているが、屋根の工夫で北側校庭も日影が気にならない。旧校舎跡地に駐車場を設置した点も、新校舎との距離があり安全面で評価できる。
- ・ 太陽光発電・蓄電や雨水利用等、防災・環境面にも配慮した校舎となっている。

委員コメント（運営面）

- ・ 居ながらの改築事業としての特徴から、建設過程（工事の様子など）を子ども向けに掲示し、“自分達の校舎”といった意識の醸成を図った。その結果、建設中のクレームもほぼ無かったとのこと。
- ・ 教科準備室における教材の整理が良くできていた。
- ・ 全教室に電子黒板が配置されており、多様な内容・教材の提示が可能となっていた。
- ・ ほぼ学年ごとに配置されたワークスペースは、家具類が十分に配置されておらず、活用のイメージも共有されていないように感じられた。
- ・ 教科準備室について、教材は良く整理されている一方、教材置場としての役割を超えた教材準備のための設え（机椅子の配置、展示など）も期待される。現地の聞き取りでは、小学校であり教科担任ではないので教材準備のための空間、とは期待していない、とのことであった。
- ・ 職員室の先生方の机に書棚や書類等を置かず、開放的に使用しており好感がもてた。その一方で、外来者用の窓口が、先生方の机からはやや離れており不便ではないのか気になった。
- ・ 音楽室の天井は、板を重ねた特徴的なデザインであるが、音響的な効果という観点から支障はないのか、先生方の評価をうかがいたい。

委員コメント（その他）

- ・ 教育委員会の作成した、「都和小学校のつくりかた」というアルバムがわかりやすく、建設中の児童に対する教育および住民に対する情報公開という点で、効果を発揮すると思われる。

3 八千代市立萱田南小学校（千葉県八千代市）



学級編成 (2018年5月現在)

| 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 | 計 |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|----------------------------|
| 3学級 71名 | 2学級 60名 | 2学級 67名 | 2学級 75名 | 3学級 92名 | 3学級 84名 | 15学級 (特別支援学級なし) 449名 |

職員

| 校長 | 教 頭 | 教 諭・ 講 師 | 養 護 教 諭 | 事 務 職 員 | 計 |
|----|-----|-------------|------------|------------|-----|
| 1名 | 1名 | 19名 | 3名 | 1名 | 25名 |

学校教育目標

国際社会にはばたく南の子 一夢と自信を育む一

施設概要

平成19年築

RC造4階建(校舎)

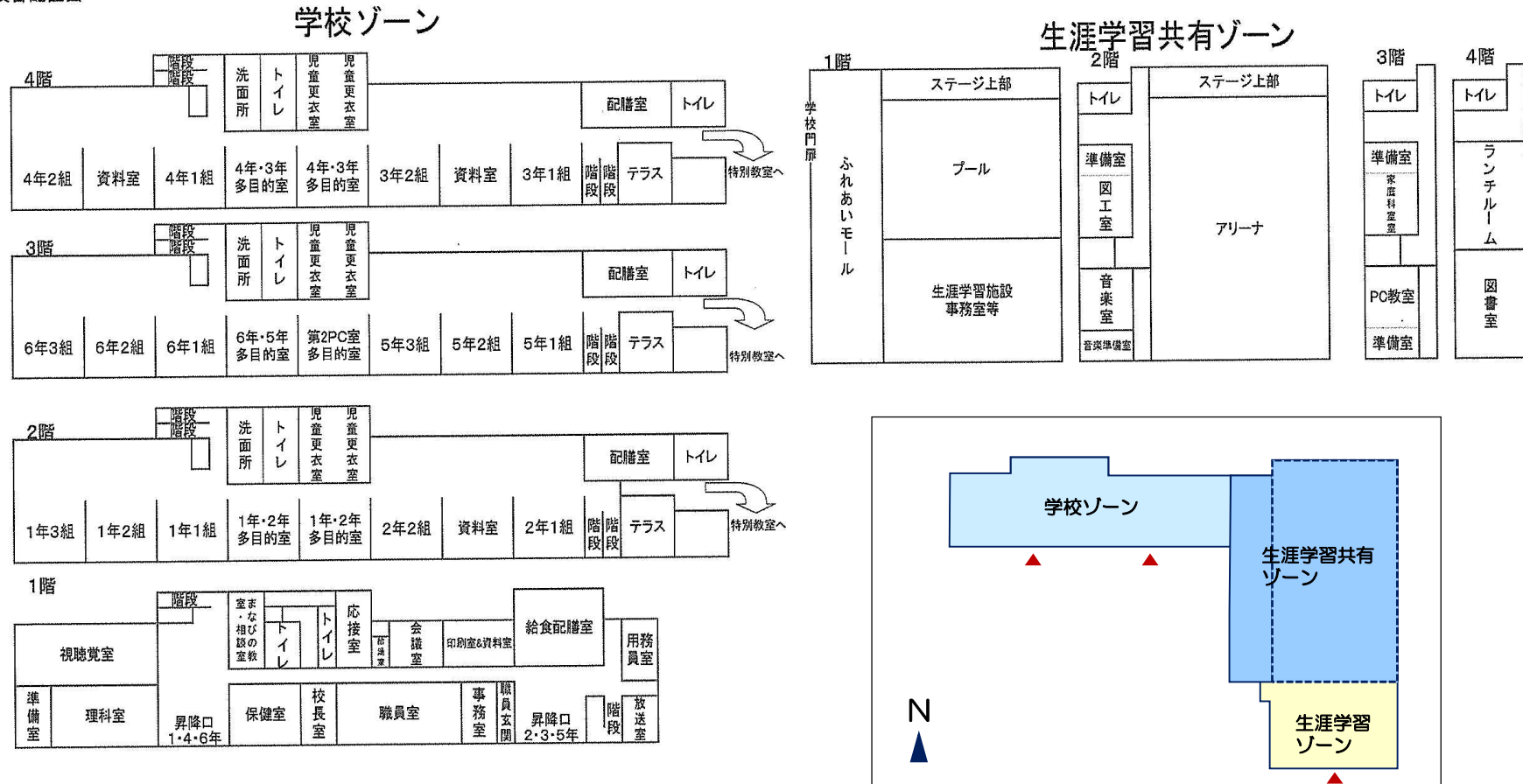
※体育館・プールは総合生涯学習プラザの施設を活用

延べ6,636㎡(敷地面積7,051㎡)

沿革

平成19年度、八千代市立萱田小学校より分離新設。総合生涯学習プラザが併設され、当プラザ内のアリーナ(体育館)と屋内温水プールを学校教育活動に利用している。

◇校舎配置図





①

▲普通教室は廊下を介してオープンスペースとつながっている。



②

▲普通教室。
可動式の家具で廊下との間を仕切っている。廊下との境に木の枠組みを設け、児童生徒の作品等を掲示。



③

▲オープンスペース。



④

▲オープンスペースは展示用ボードや棚を設置し、教室の余剰空間としても利用。



⑤

▲十分な広さを持った更衣室。



⑥

▲柱の角を利用した小規模な畳スペース。



⑦

▲職員室。



⑧

▲相談室。生徒だけでなく保護者との面談にも利用。



⑨

▲理科室。



⑩

▲2・4・6と1・3・5で分けられた昇降口。壁・床には木材を利用。



⑪

▲校庭。
敷地内に高低差があり、校庭は一段下がった位置。



⑫

▲アリーナ（体育館）。
平日日中は学校が利用。
夜間・休日は総合生涯学習プラザ
の施設として一般開放。



⑬

▲教具類は、共用部分でなく学校
側の施設に保管。



⑭

▲総合生涯学習プラザ側のアリー
ナ入口。



⑮

▲音楽室。



⑯

▲図書スペース。



⑰

▲PC室。



⑱

▲ランチルーム。PTA活動にも
利用される。



⑲

▲総合生涯学習プラザの学習相談
・情報提供コーナー。



⑳

▲会議室。



㉑

▲民間事業者が運営しているスポ
ーツクラブのトレーニング室。

委員コメント（計画面）

- ・ 生涯学習施設との複合化により、借用により高機能のプール・アリーナを使用できるようにした。
 - ・ 各階に児童更衣室を設けた。
 - ・ オープン形式の普通教室で、廊下との間は可動ロッカーで仕切られている。この可動ロッカーを前後に少し動かすだけで普通教室の空間を拡げられるようにした。
 - ・ 1階保健室前の「相談室」は、個別指導にも活用しやすいよう配置した。
 - ・ 各階に、普通教室と並べて多目的室が配置されているが、家具や設備に特徴がなく利用しづらく感じられた。
 - ・ 従来ある廊下面の壁をなくし、オープンスペースとしているのが大きな特徴だが、その利点を様々な利用した工夫がされている。特にグループでの学習・作業の際にはよりコミュニケーションが図りやすいものと思う。
 - ・ 壁のないことで隣接する教室の音が気にならないかについて、慣れてしまうと気にならずに授業に取り組んでいるとのことで、むしろ周囲に惑わされずに集中することの訓練になる面もあろうと感じた。
 - ・ 収納スペースを可動式の仕切りとして活用している点も、場面に合わせた授業形態に変更できてメリットだと感じた。
 - ・ 課題としては、配慮の必要な児童が慣れるのにかかる、学級崩壊の問題が起きたときの他教室への影響などを感じた。
 - ・ 全体的に生涯学習共有ゾーンと学校の施設整備状況に差が見られる。
- 例) Wifi環境、エアコン(扇風機)等
- ・ 空調設備のある体育館(アリーナ)、屋内プールに関しても、施設の充実度、管理体制等を含め、生涯学習との共用は制約以上に学校に大きなメリットがあると考えられる。
 - ・ 情報化に関しては、この夏にタブレット140台、すべての普通教室に電子黒板(85インチ)、無線LAN、テレビ会議システム等の整備が行われる予定とのことで、配置や活用等については確認できなかった。

委員コメント（運営面）

- ・ 複合化により、温水プールや空調されたアリーナを使用できている。
- ・ 児童達は、温水プールや空調されたアリーナを使用する際、公共の施設を貸してもらっている、との意識を持つことができている。
- ・ オープン形式の普通教室なので、隣のクラスから多少音が聞こえることに慣れているため、授業中に机の配置をペアからグループに変えたり、戻したり、を気兼ねなくできている。
- ・ 四年生は一クラス40名近いが、可動ロッカーを動かせば空間が広がるため、電子黒板を部屋に入れても狭く感じずに済んでいる。
- ・ 学校側から生涯学習施設側への移動の際（特にプールの利用）、若干複雑な動線となり、鍵の開け閉めも煩雑と感じられた。防犯上の配慮とは理解できるが、手間が掛っていると思われる。
- ・ PFIによる運営にはメリットを多々感じた。プール運営はコスト面、教員負担、設備改良などに大きなメリットがあることがわかった。
- ・ 職員室の開放感と保護者目線から感じる親近感、携わる関係者同士の距離感に好影響を与えるだろうと思う。
- ・ 共有スペースの清掃や大切に使う気持ちが教育上しっかりと学ばせることが出来れば、公共のものに対する意識の醸成にも役立つ。反面管理者任せになり、自分たちで自主的に清掃することの意識が疎かになるとデメリットのになってしまう。
- ・ プールの管理等、教員の負担が大幅に減り、計画的に水泳の授業が実施できる点が特に評価できる。近隣の学校からの移動についても、学校毎の設置や管理のコストと比較すればメリットの方が大きいと考えられる。

委員コメント（その他）

- ・ 家庭科室での料理教室、PC教室でのプログラミング教室等、生涯学習のプログラムでの活用等さらに充実させ、共用施設の充実を図り、活用頻度をあげることも検討すべきではないか。生涯学習施設内のトレーニングルーム等の部活動での活用も考えられる。

4 千葉大学教育学部附属小学校 (千葉県千葉市)



学級編成 (2018年4月末現在)

| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 計 |
|-------------|-------------|-------------|--------------------|--------------------|--------------------|----------------------|
| 3学級 105名 | 3学級 105名 | 3学級 103名 | 3学級<1> 104名<2名> | 3学級<1> 104名<4名> | 3学級<1> 105名<6名> | 18学級<3> 626名<12名> |

※<>は帰国児童学級及び児童数を外数で示す。

職員

| 校長 | 副校長 | 教諭 | 栄養教諭 | 栄養士 | 養護教諭 | 調理師 | 非常勤講師 | スクールカウンセラー | 特任専門職員 | 事務 |
|----|-----|---------|------|------|------|-----|-------|------------|--------|----|
| 1名 | 1名 | 33名(1名) | 1名 | (1名) | 1名 | 1名 | 4名 | 1名 | 1名 | 4名 |

※()は育児休業による臨時的任用者を外数で示す。

| 用務員 | 非常勤職員 | その他 | 計 |
|-----|-------|-----|---------|
| 4名 | 8名 | 2名 | 62名(2名) |

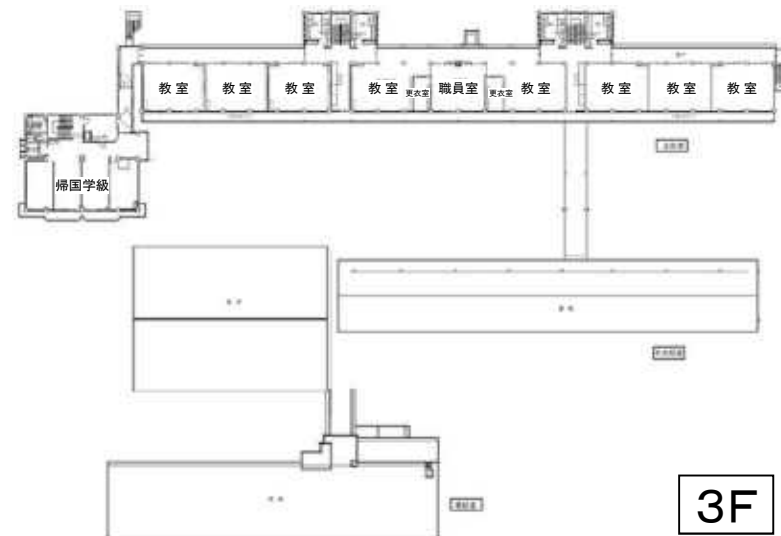
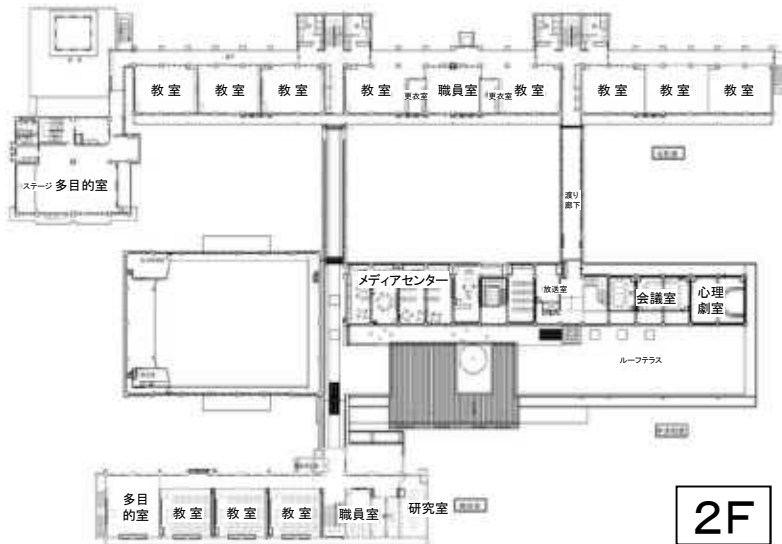
学校教育目標

- 学び合い、喜び・感動のある学校を創造し、確かな学力と心豊かに生きる力を育てる

施設概要



北校舎(昭和41(60)年築、平成17年改修)
RC造3階建て 3,129㎡+1,454㎡
中央校舎(昭和41年築、平成19年改修)
RC造2階建て 2,562㎡
南校舎(昭和44年築、平成25年改修)
RC造2階建て 1,085㎡





①

▲普通教室。目的に応じて廊下間建具のオープン・クローズを使い分けることができる。



②



③

▲普通教室の背面に設置された児童用ロッカー。



④

▲図書館の奥に隣接するパソコンルーム。



⑤

▲図書館。改修時に拡張され、様々なコーナーが作られた。



⑥



⑦

▲図書館の一角に設けられた読書コーナー。座り込んで読書できる。



⑧

▲階段にも一工夫。昇降部分と座ることができる部分に分けて、多機能性をもたせている。



⑨

▲児童がリラックスできる「たまり」の場を創出。休み時間を中心に、大人気のスポットとなっている。



⑩



⑪

▲音楽室。



⑫

▲心理劇室。道徳で役割演技等を行う際に活用している。



▲活動室（多目的室）には電子黒板を設置。



▲家庭科室。



▲帰国学級。文化の違いから、普通学級に慣れない児童のホームベースのような役割を果たしている。



16



▲職員室は1年、2年、中学年、高学年に分けて配置。



▲昇降口。バリアフリー対応も行われた。



▲体育館。



▲屋外プール。水深の違う大小2つのプールに分かれている。

委員コメント（計画面）

- ・ 築50年の古い校舎をリノベーションした点が評価できる。他に活かしやすい事例であると感じた。
- ・ 多目的室、特別教室の既存の設備を活かしつつ、応用しながら用途や様式を変えているところが、教員の工夫する意識にもつながっているのかと思う。
- ・ 図書室は開放的で、スペースをさらに広げた点も児童にとって利用しやすい印象を持った。
- ・ 既存の建物を改修する過程で、児童や教員の声を反映された部分があり、スムーズな活用につながっている。
- ・ 図書館の改修は、6年という長いスパンを考えて工夫があり、読み聞かせや新しい取り組みに対応可能な工夫があった。
- ・ 教室の計画に柔軟性があり、新しい学習指導要領の下での授業においても、対応できる教室になっていると感じた。
- ・ より長寿命に対応した改修計画であれば、望ましい。最近の気候変動を考えると、猛暑に対する対応が弱いように思う。
- ・ 教員の異動により、建物の理念の継承が難しくなっている。独特の教育方針であるので、建築の理念もしっかり継承することが求められる。
- ・ 増築が繰り返され、片廊下・中廊下も混在しており、簡潔な計画・設計ではない。しかしながら、各特別教室の設えの良さや、平成17年～25年の大規模改修での模様変えの効果もあり、校舎・教室への思い入れを持ちやすいと感じた。
- ・ 2階の心理劇室の円形舞台、1階の第Ⅱ音楽室の曲面天井など、用途に見合った空間の工夫がされている。（一方で、汎用性は低い。（課題））
- ・ 校舎が3棟で構成され、低学年は中・高学年とは別棟となっているため、学齢段階ごとのまとまりは得られやすいと感じられた。
- ・ 大規模改修では教員の意見を尊重し、図書館機能を多層化（1・2階）し、室内階段で上下を結んであり、各室から図書館へのアクセスが改善されるとともに、図書館機能を おはなしセンター（1階）とメディアセンター（2階）に分化している。学齢によった利用しやすさが感じられた。
- ・ 3棟に分かれ、それぞれ渡り廊下で繋がれているため、校舎群の端から端への移動距離が長く、全体を利用するには不便を感じた。
- ・ 職員室が学年ごとに分散されているため（1年・2年・中学年・高学年）、学年担当間を超えた教員の交流、協力等には不利と感じられた。
- ・ 耐震、防犯、学習空間等の視点からよく考えられた改修が行われていた。
- ・ 全校のWifi環境は改修後に整備されているが、普通教室の大型提示装置の常設は実現されていない。これらの整備も校舎の改修と同時に行う方が効率的であると考えられる。
- ・ 改修によって空間の改善はみられるものの、収納家具や教具等古いものが目立ち、整理はされているものの効率的な収納、配置とはなっていない。全校的な改修を行う場合に、教具や教育機器等の配置や収納についても配慮して計画をすることが必要だと思われる。
- ・ 教室側面の間仕切りが移動可能なガラス戸となっており、開放感がある一方、掲示スペースが少なくなっているのではないかと。

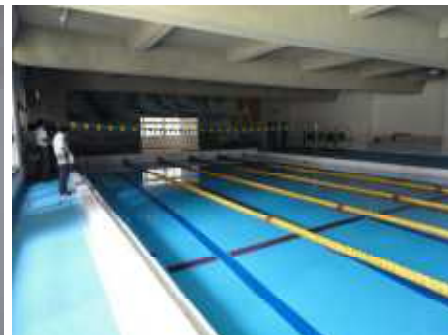
委員コメント（運営面）

- ・ 職員室の分室方式も利点がいろいろとあるようだった。
- ・ 学習指導の点において2学年単位で計画する場合にはさらにメリットがあると思われる。
- ・ 美術・技術室の外廊下を工夫して使い、のびのびと授業ができる環境がよい。
- ・ ベンチや畳のスペースがしっかりと活用されているところは評価できる。
- ・ 国際学級が隔離された印象がある。互いを特別な存在として感じさせないような工夫があるとよい。
- ・ 隣接して中学校があるが、しっかりと仕切られており、行き来できるような工夫がないところはもったいないと思われる。
- ・ 各授業時間帯で、その時間帯に使用されない教室・特別教室は、早い者勝ちで予約し利用できるよう運用されている。授業内容によって広い教室が必要であれば、広い教室を利用するとのこと。このため、アクティブラーニングを展開する際にも、特段、普通教室のサイズは問題とならない、とのこと。
- ・ 職員室は分散しているが、教頭が毎日各室に顔を出すことで、教師間の円滑なコミュニケーションを確保しているとのこと。
- ・ 全体の職員室がなく、低中高別の職員室となっている点については、校務の情報化を一層進め、情報共有の徹底を図ると同時に、インフォーマルなコミュニケーションを活性化するための(休憩可能な)共有スペース等を設置することも検討しても良いのではないかと。

委員コメント（その他）

- ・ 教室の廊下面の扉が4枚スライドだったが、手をはさむなどの安全面での配慮は必要なのだろうと感じた。
- ・ 大学の構内にあるため、広々とした印象がある。グランドや樹木など、開校当初の様子を残し、大切にしていることが感じられる。
- ・ 予算面での課題を感じた。環境整備については今後の課題だと感じた。
- ・ 改修の整備方針が検討され、それに基づいて効果的な改修が行われた事例である。

5 千代田区立神田一橋中学校 (東京都千代田区)



学級編成 (2018年6月現在)

| 1 年 | 2 年 | 3 年 | 計 |
|------------|------------|------------|-------------|
| 2学級 59名 | 2学級 66名 | 3学級 86名 | 7学級 211名 |

職員 ※確認中

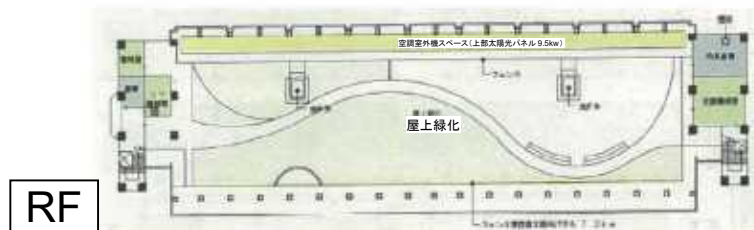
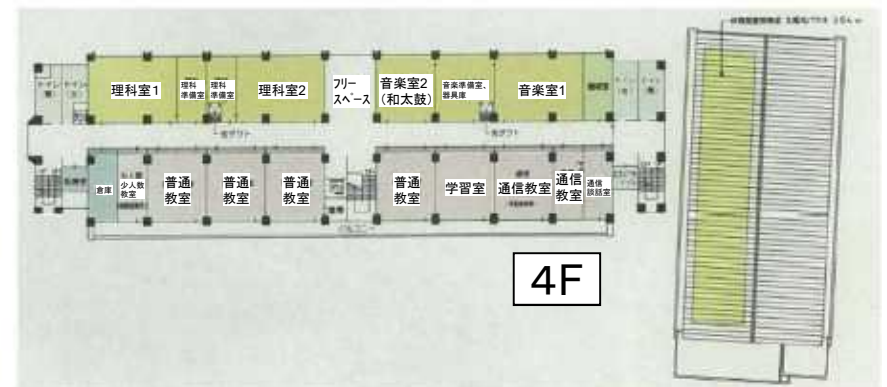
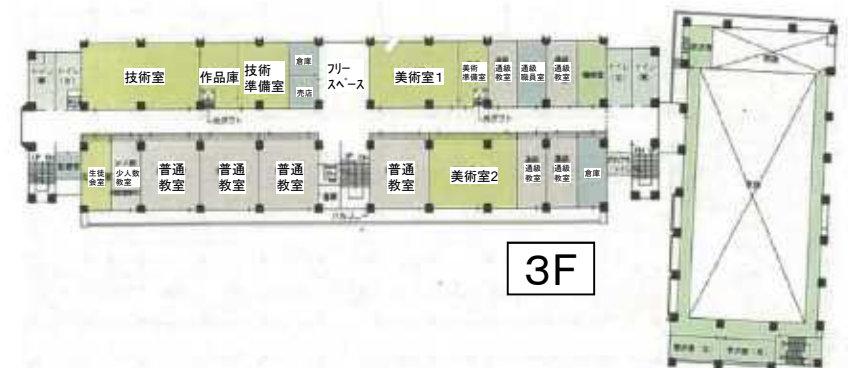
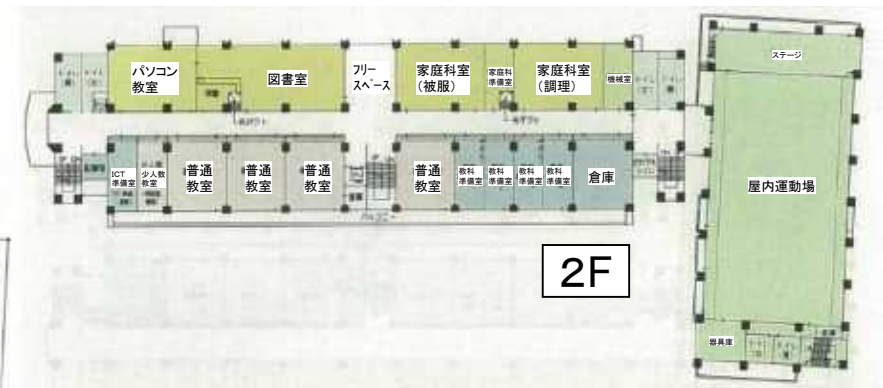
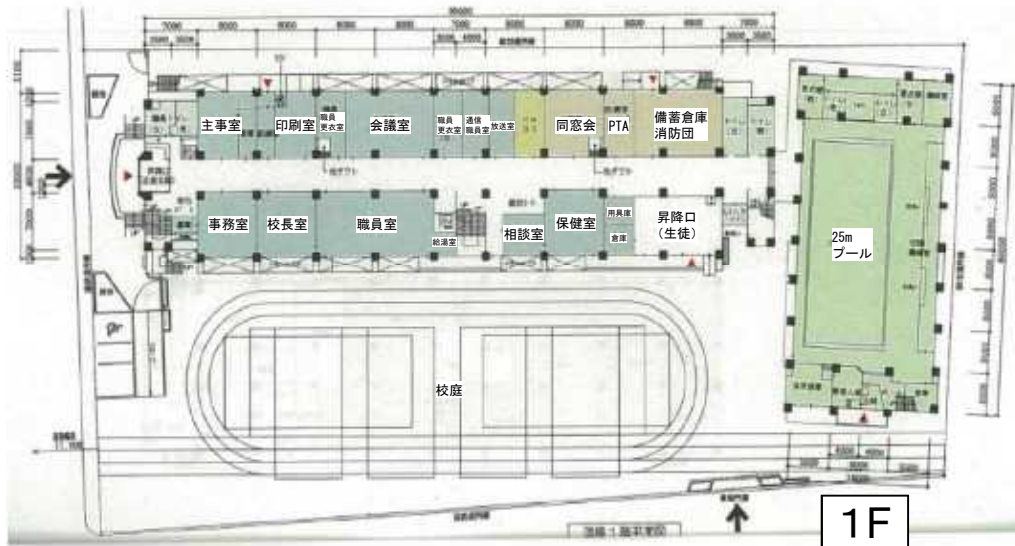
| | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

学校教育目標

- 向学心に燃え、意欲的に学び続ける人【向学】
- 広い視野を持ち、進んで社会に貢献する人【貢献】
- 他を思いやり、礼儀正しい人【礼節】

施設概要

昭和57年築（平成26年全面改修）
 RC造 地上4階 地下1階建（校舎棟）
 SRC造 地上3階建（体育館棟）
 延べ10,294㎡





▲普通教室。改修により廊下側に1m拡幅し、生徒用ロッカーを常置できるようにした。



▲普通教室に設置された可動式のICTボード。教師のタブレットと連動し、必要な情報をすばやく投影できる。



▲黒板下に設置された情報端末の充電保管スペース。生徒それぞれが自作のカバーを掛けて保管。



▲第一理科室。採光面も大きく非常に明るい。



▲第二理科室。



▲図書室。カラフルな色調が見た目にも楽しい。



▲パソコン室。



▲廊下は建設当時から非常に広く確保されていた（約4m）。



▲改修により各フロアにフリースペースが設けられた。学級間交流の促進に役立っている。



▲乾式でとても清潔感のあるトイレ。ガラスブロックにより採光も十分確保されている。



▲多目的トイレ。



▲体育館。改修により空調設備（床吹出し式）が整備された。



13

▲地下1階の多目的スペース。隣接する和室と連携して様々な活動が可能。



14



15

▲和室では、お茶やお花、着付けなどの和文化学習が可能。



16



17

▲屋内プール。屋内運動場の下階に配置されている。



18



19



20

▲職員室。



21

▲太陽光パネルによる発電等、校舎に施された様々な環境負荷低減に関する取組を分かり易く展示。



22



23

▲昇降口。



24

▲屋上。ウッドデッキと天然芝が広がる。

委員コメント（計画面）

- ・ 改修とは思えないほどの、計画であり、この学校の特徴を活かした建物になっている。
- ・ 校内が暗くならないように、工夫した採光がよい。また、室内の温度が高くないように、二重ガラスにするなど、弱点をなくす工夫がみられた。
- ・ ロッカーを教室内に入れたことにより、展示スペースがなくなったが、代わりに廊下の壁を掲示しやすくする工夫があり、生徒たちの成果物が、来校者にも見える化につながっている。
- ・ 情報化推進校らしく、ハード面の充実だけでなく、利用ルールなど、ソフト面での充実も準備もされており、使い方まで考えた計画となっている。

- ・ 3中学校の統合により校舎の全面改修が行われた。
- ・ 普通教室の横幅を1m広げ、生徒用ロッカーを教室内に設置。掲示スペースは減少。
- ・ 黒板の上下にレールを設置し、可動式電子黒板を設置。黒板全面が使えるように、黒板の外まで移動できるようにしている。教室の横幅と黒板、可動式電子黒板の横幅を設計段階から検討する必要がある。黒板下に情報端末の充電保管ロッカーを設置。教室の空間を狭めないように生徒一人1台の情報端末の保管スペースが確保されている。校内全体のWifi環境が整備され、ほぼケーブルレスでICTの活用が行える環境が整備されていることも特筆すべき点である。普通教室の情報化の先進事例であると考えられる。
- ・ 教科書、ノート、情報端末を並べておくには、生徒用の机はさらに大きい方が望ましいだろう。

- ・ 校舎の構造は単純であるが、内部は各教室の目的に合わせた空間となっており、変化に富んだ学校となっている。
- ・ 改築時に教室を1m廊下側に広げたことにより、教室に開放感が生まれている。その分、中廊下は2m狭くなっているが、当初から広い廊下であるためか、なお十分な余裕がある。
- ・ 中廊下でも採光窓を確保することで、照度は問題なくやわらかな光を感じることができる。
- ・ インタラクティブボードは可動式であり、板書と効果的に併用できる。ただしボード自体が大ぶりで、やや圧迫感を感じる。
- ・ 黒板の下に、タブレット・ノートパソコンを収納ならびに配線できるようにしてあり、収納性ならびに安全性に優れている。
- ・ 屋上に芝生を植えてあり、生徒にとっては安らぐ空間となっている。その一方で、校庭は都心の学校らしくやや殺風景に感じる。

- ・ Wi-Fi環境が整っている。
- ・ スライド式の電子黒板を各教室前面に配備している。
- ・ LED照明に加えて自然光を取り入れ、全体的に校舎内が明るい。
- ・ その立地から十分な広さを確保できないグラウンドの状況に対し、体育館の空調及び温水プールの完備により、必要な運動量の確保を補完していると考えられる。
- ・ 幅のある庇のおかげで、教室内への直射日光を防いでいる。

委員コメント（計画面）

- ・ 改修工事により、普通教室と廊下との間の界壁を廊下側に1m拡げ（廊下にあったロッカーも取込み）、教室幅を8mから9mに変更できている。これにより、生徒の机の間隔を保てるとともに電子黒板、黒板、液晶ディスプレイを教室全面に余裕をもって並べられている。なお、千代田区の「情報教育推進校」に指定されており、タブレット端末は約260台配備（生徒数は211名であり、各自専用で使える。）。
- ・ 中央廊下方式のため、中廊下に自然光が届いていなかったが、改修工事により廊下の二か所に光ダクトを新設し、4階から1階まで自然光が届くようになった。
- ・ 低利用であった地階のランチルームを、集会や発表に適した多目的スペース及び和文化室（茶室）に用途変更した。これにより、改修工事のテーマであった“伝統文化に係る活動の推進”を図りやすくなった。“神田”という土地柄、和太鼓などの部活動には地元有志が訪問指導。
- ・ 改修工事により、全館空調を実現した（屋内プールの暖房のみ無い）。屋内運動場にも冷房が入り、屋内プールは水泳部が通年使用できる。屋内プールの普段の地域への開放はない。
- ・ 改修工事により、最上階の4階にあった図書室と3階にあったパソコン教室を、一体として2階に変更した。これにより、学校の中心に図書室とパソコン教室を配置できた。公立図書館の司書に学校への併任発令を行い、校長の指揮のもとで働けるようにした。
- ・ 教室群以外でも、1階に同窓会室、消防団室、コミュニティールームが配置されるなど地域関係諸室も充実しており、地域との連携を支える計画となっている。

委員コメント（運営面）

- ・ 普通教室にタブレットをおき、3年間持ち上がるという点は、学習におけるPCを道具として、活用している意識を持たせることに有効だと感じる。自宅に持ち帰らないので、学習の連続性は今後の課題になる。
- ・ 屋上のオブジェがあることで雰囲気やわらなくなっている。生徒の自由な発想を育む意味でも、芸術を身近に感じる工夫は評価できる。
- ・ 図書館の閲覧スペースがもう少し広くてもよいと思う。新しい学習指導要領では、PC以外での調べ学習も重要なポイントであり、授業とのコラボが行いやすい工夫があるともっとよい。
- ・ 夏休み前ということもあり、校内の展示物が少ない印象を受けた。建物の理念や工夫を先生方にも生徒たちにも伝える工夫がもっとあってよいと感じた。
- ・ 校内サーバーを置かず、校務支援システムもクラウド（データセンター）で運用する等、校内のネットワーク機器の管理も最小限に留めている。
- ・ 校内全体で収納家具が多く配置されており、教材教具や機器等が整理されている。
- ・ 教室側の壁面にロッカーが据え付けられていて、取り外しができず不便だと校長がおっしゃっていた。また掲示物の場所も制約されるが、その代わりに廊下側の壁面がすべて掲示可能なボードとなっている点は評価できる。
- ・ 体育館にも空調があり、学校生活ならびに避難所機能としても快適に利用できる。
- ・ 多目的スペースや和室についても、学校生活のみならず文字通り多目的に利用可能な部屋となっている。ただし地下にあるため、湿度管理に留意する必要がある。
- ・ 一人一台のタブレット端末について、生徒の自作のカバー袋をかぶせており、丁寧に扱うよう工夫。
- ・ 全教室に電子黒板（Interactive White Board）を配置したことで、教師は部屋を変更、異動しても、同じように電子教材を使えるようになっている。
- ・ 授業中の座席の変更（一斉、ペア、グループ）については、上下階や左右の他の教室に気兼ねなく自由に机・椅子を動かし形態を変更できている。
- ・ 千代田区からの「情報教育推進校」の指定や、伝統文化推進への配慮など、厚く財政支援がなされてきているが、今後、建物や設備が更新時期を迎えていく中での財源確保は課題と思われる。
- ・ 広い「和文化室」を有し、その部屋を利用して着付け体験や和楽器体験、茶道体験など我が国の伝統や文化にふれる学習が実施されている。
- ・ 情報教育推進校として、タブレット端末や電子黒板等を活用した授業が展開されている。

委員コメント（その他）

- ・ 予算のある23区の改修事例だが、それだけでなく、生徒の学習環境の維持に熱心に取り組んでいる。
- ・ 教育委員会との連携もしっかりしており、学校の目指すものがはっきりしている点は、評価できる。
- ・ 教職員の意識がどの程度反映されているかはつかめず、気になった。
- ・ 今後、音声や動画を使った活動が増えることが予想される。ICTは、導入以上に、メンテナンスやバージョン対応が大切になる。継続的な支援が欠かせない。
- ・ 大型提示装置や情報端末の活用、管理等、情報化に対応した教室を設計段階から検討し、設備？として埋め込むことが効果的である。ただし、ネットワーク機器を設備として整備した場合の保守（保守期間は通常5年程度）や更新費用については課題となる可能性があるだろう。
- ・ 多くの先生方がインタラクティブボードをしていたが、生徒がタブレットを使用している授業が当日はなかったので、どのような授業が知りたかった。
- ・ 近隣の保育所のプール遊びのために屋上を開放しているところで、地域との連携を図っていると感じた。

6 豊島区立目白小学校 (東京都豊島区)



学級編成 (2018年5月現在)

| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 計 |
|-------------|------------|------------|-------------|-------------|------------|--------------|
| 3学級 105名 | 3学級 90名 | 3学級 93名 | 3学級 112名 | 3学級 103名 | 3学級 97名 | 18学級 600名 |

職員

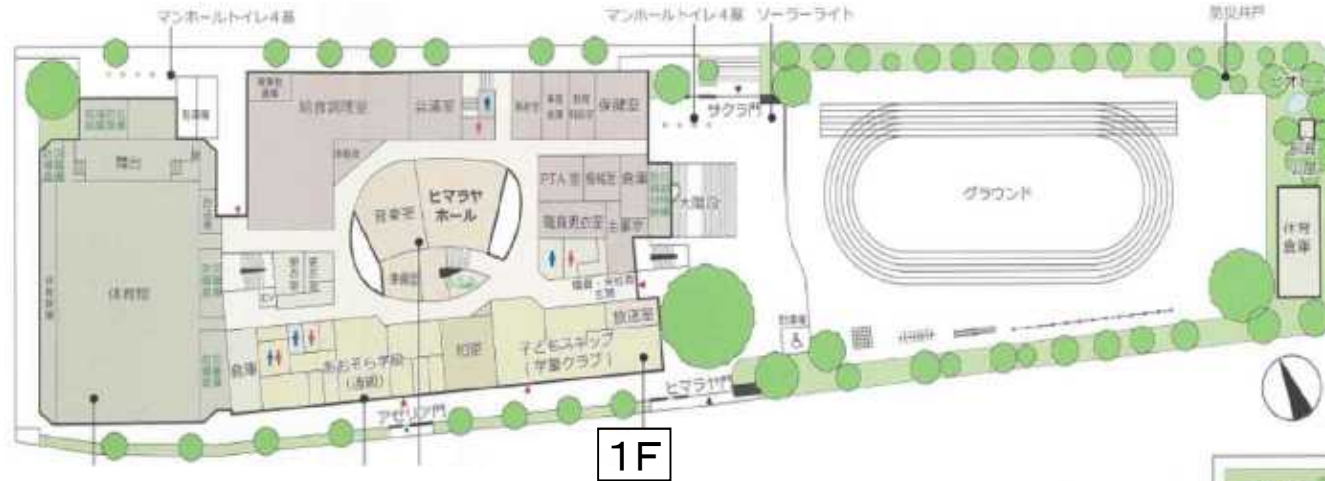
| 校長 | 副校長 | 教諭 教員 | 養護 教諭 | 非常勤教 員、講師 | A L T | 特別支 援教室 | 学校栄養 職員 | スクール カウンセラー | 巡回相談 心理士 | 事務 |
|----|-----|----------|----------|--------------|-------|------------|------------|----------------|-------------|----|
| 1名 | 1名 | 22名 | 1名 | 3名 | 1名 | 6名 | 1名 | 1名 | 1名 | 2名 |

| 学校図書 館司書 | ICT 支援員 | 学校医 薬剤師 | その他 |
|-------------|------------|------------|-----|
| 1名 | 2名 | 5名 | 19名 |

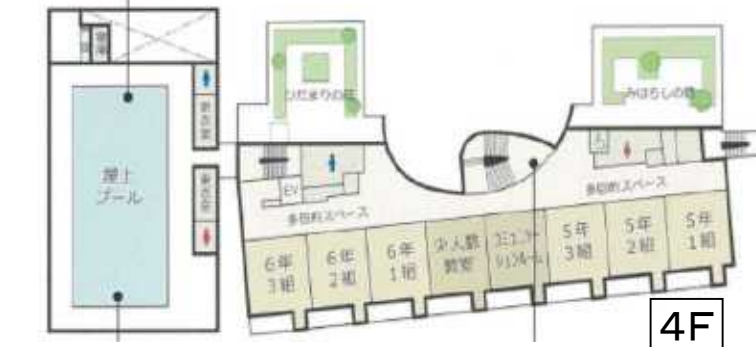
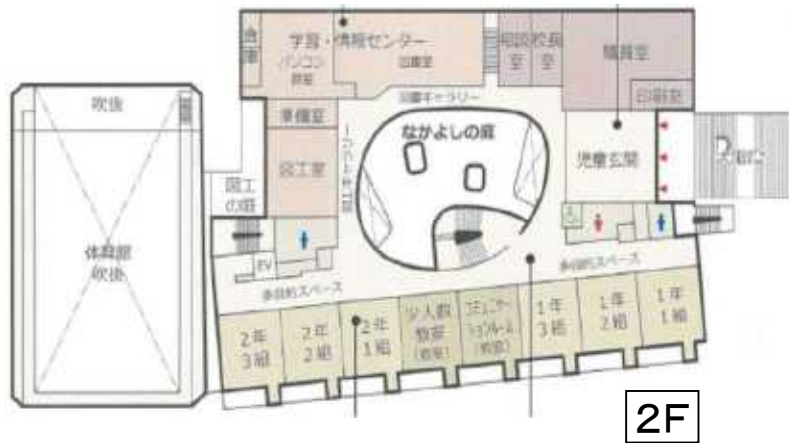
学校教育目標

○ 心豊かに 学び豊かに ~明るく 楽しく 美しく~

施設概要



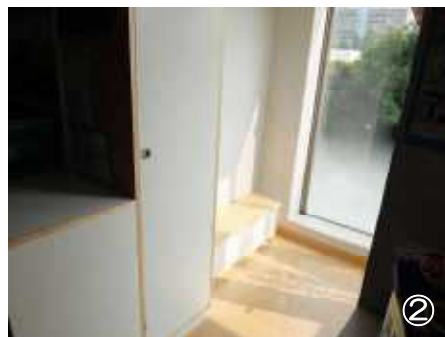
平成26年築
 RC造 地上4階建
 延べ面積 8,017㎡
 敷地面積 8,351㎡





①

▲普通教室。前面黒板にタブレットパソコンを操作して映像を投影することも可能。



②

▲各普通教室に配置された小スペース。児童がクールダウンする場所としても活用されている。



③

▲学習・情報センターのパソコン教室。児童もタブレットパソコンを使用して学習を行う。



④

▲各室のサイン。室をイメージできるイラストが用いられており、見た目にも楽しい。



⑤

▲学習・情報センターの図書室。隣接するパソコン教室と連携。



⑥

▲図書室内の一角に設けられた読書コーナー。



⑦

▲理科室。特別教室の実験台や作業台等は、それぞれ異なる色で統一されている。



⑧

▲流し部分は水がかりを考慮した床材を採用。



⑨

▲非常に明るく広くとられた廊下。



⑩

▲中庭に面する部分は柔らかな曲線を描いており、空間に大きな変化がもたらされている。



⑪

▲乾式で清潔感のあるトイレ。



⑫



▲洗口所（歯磨きスペース）。各階多目的スペースに設けられている。



▲音楽室。パーティションを開放することで隣室のヒマラヤホールと一体的に利用が可能。



▲職員室。一角に校内監視カメラのモニターを完備。



▲職員室に隣接した位置にある印刷室。職員室から直接出入が可能。



▲体育館。災害時の地域の避難所として、備蓄倉庫やマンホールトイレ等が確保されている。



▲備蓄倉庫。災害時の備蓄品が確保されている。



▲屋上プールサイドから中庭、屋上庭園を見る。ウッドデッキと芝生が広がる児童の憩いの場。



▲棟中央の階段室。柔らかない曲線が空間に大きな変化を与えている。



▲体育館の上部に配置されたプール。災害時にはマンホールトイレの洗浄水としても利用可能。



▲シャワー、洗眼スペース。



▲グラウンド。限られた敷地の中でピオトープや防災井戸も設置。



▲屋上に設置された太陽光パネルとヘリサイン。

委員コメント（計画面）

- ・ 比較的狭小な敷地。グラウンドの広さを確保するため、校舎・体育館・プールをコンパクトに配置。その中で、機能によるゾーニングや各室の連携など、よく配慮された層構成、平面計画とされている。
- ・ 学童保育との複合化がなされているが、専用の出入口を設けることで管理に配慮するとともに、共同で利用できる“和室”を隣接させるなどの計画上の工夫が見られた。
- ・ 2階以上を中庭型の計画とした。この中庭自体が児童の愛着を得られるデザインとしている。また、これに面する廊下に回遊性を持たせている。
- ・ 理科・家庭・図工など各教科のスペースについて教科センターと見られるよう教室の壁に教材・関連資料ディスプレイ(ガラス棚)を作りつけておく工夫が見られた。
- ・ 1階に学童保育、通級指導スペース、PTA室など地域との関わりのあるスペースをまとめて配置しており、管理区分が分かりやすい計画となっている。
- ・ オープン形式の普通教室であり、廊下との境に可動式棚が置かれている。この可動式棚を前後に動かすことでスペースを拡張できる計画とされている。
- ・ 教育の情報化を推進しており、タブレットは、3学級当たり1学級分程度確保。全教室に電子黒板(スライド式プロジェクタ)を配備。区のデータセンターにより区内全校をクラウド化。
- ・ 廊下を除き全館空調。体育館にも冷房を導入。
- ・ 学校の中心である2階に図書館とパソコン教室を一体化した「学習・情報センター」を配置。
- ・ 冷房・暖房が必要な時期は普通教室をオープンにしづらい。児童からはオープンを望む声高い。廊下では多少声は響くが教室内では気にならない。
- ・ 児童玄関を2階としており、屋外大階段を登って玄関に入る計画。大雪や悪天候の中で屋外大階段を使う際に転倒等の恐れがある。
- ・ 敷地面積が広いとは言えないが、その分、屋上スペースを利用した菜園やプールなどにより、学習・生活のための場が十分に確保できている。
- ・ 避難所としての利用を想定し、体育館に冷暖房を完備している。
- ・ 自然光を取り入れるための窓が効果的に配置されている。また、教室の窓の上部に幅のある庇があることで、普通教室内に入る直射日光を遮る工夫が見られる。
- ・ 校舎と隣り合う住宅への日当たりを考慮した構造(目白通り側に4階建て校舎、住宅地側は2階)。
- ・ 創建当時からある樹木(ヒマラヤスギ)を敷地内に残して新校舎を建てている。

委員コメント（運営面）

- ・ 3階の屋上菜園について、菜園に面する理科室、家庭科室の双方が活用できる。
- ・ 各学年に1室ずつ少人数用教室が別途配置されており、外国語の授業などで少人数指導を実施。
- ・ 普通教室の幅・奥行について、高学年では若干狭いと感じられている。一方で、比較的狭小な敷地にコンパクトに計画されグラウンドが広く、上記少人数用教室が確保されている。
- ・ 無線LAN及び電子黒板が全教室に配備され、有効に活用されているように感じた。準備に係る手間が少なく、「使い勝手のよさが使用頻度を高める」という管理職の言葉に納得した。
- ・ 階段や廊下の中央線がなく、色分けすることで通行のきまりを意識させている。
- ・ 「洗口所」という名称が、いかにも歯の健康を重視していると思わせるが、少し角度を上向きにした鏡の設置など、児童の使い勝手を十分に考慮できている。

委員コメント（その他）

- ・ 都内2校の公立小中学校の視察では、避難所としての活用を意識して校舎内の空調設備を整備しているとの説明があった。これに加え、昨今の全国的な高温状況及び熱中症の危険度を鑑み、児童の学ぶ場として及び職員の働く場所として、校舎内の冷房設備については、今後の小中学校の学校設備整備指針でその必要性を言及すべきことと認識した。